

漢語近世音と契丹文字漢字音(12)

—止摂歯音の拗音性の消失、『契丹小字研究』の荘・章組字の表記—

吉池孝一 中村雅之

精組

吉池：前回及び前々回において<sup>1</sup>、止摂精組字の表記に使用される𐰞と𐰟(𐰟)の用例を検討し、漢語表記の専用字であることを確認しました。そして𐰞の音をSi、𐰟(𐰟)の音をiとしました。

中村：止摂精組の諸字においては、拗音性は消失しており、𐰞 Si=𐰞𐰟 ts i (ts+i)・𐰞𐰟 Si (S+i)であったという常識的な結論となりましたね。今回は、『契丹小字研究』(1985)<sup>2</sup>にある止摂の荘組と章組を順に検討するということでした。まずは荘組です。

荘組について

吉池：荘組は次の通りです。

	𐰞	𐰟𐰟 (𐰟𐰟)	𐰟𐰟
遼 (916—1125)			
興宗皇帝哀册 1055 年	史𐰞		
蕭令公墓誌 1057 年	師𐰞史𐰞事𐰞		
仁懿皇后哀册 1076 年	無し		
道宗皇帝哀册 1101 年	無し		
*参考 蟹摂精組：祭𐰞𐰟 (2.檢校國子祭酒)			
宣懿皇后哀册 1101 年	無し		
許王墓誌 1105 年	師𐰞使𐰞史𐰞事𐰞		
*参考 止摂知組：知𐰟 (24.知院都統)、政𐰟用 (令6.政事令)			
故耶律氏銘石 1115 年	師𐰞 (15.國師, 25.太師) 使𐰞 (2.觀察使)		師𐰟𐰟 (5.太師, 6.太師)
金 (1115—1234)			

<sup>1</sup> 吉池孝一・中村雅之(2021)「漢語近世音と契丹文字漢字音(10) —止摂歯音の拗音性の消失、精組字の表音—」『KOTONOHA』第220号、1-16頁。吉池孝一・中村雅之(2021)「漢語近世音と契丹文字漢字音(11) —前回の補足：𐰟(𐰟)の用例五種の検討—」『KOTONOHA』第221号、1-7頁。

<sup>2</sup> 清格爾泰・劉鳳翥・陳乃雄・于寶麟・邢復禮(1985)『契丹小字研究』北京：中國社會科學出版社。

郎君行記 1134 年

無し

蕭仲恭墓誌銘 1150 年

師<sup>ㄨ</sup>史<sup>ㄨ</sup>事<sup>ㄨ</sup> 使<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>事<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>

中村：主に<sup>ㄨ</sup>が使用されていますね。故耶律氏銘石には「師」<sup>ㄨ</sup> (15.國師, 25.太師) のほかに、「師」<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> (5.太師, 6.太師) が 2 例あります。また、蕭仲恭墓誌銘には「師」<sup>ㄨ</sup>・「史」<sup>ㄨ</sup>・「事」<sup>ㄨ</sup>のほかに、「使」<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>・「事」<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>もあります。この三種の表記の関係をどのように見るか。理屈の上では次の 4 つの組み合わせが可能です。

- ①<sup>ㄨ</sup> = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> (<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>)
- ②<sup>ㄨ</sup> ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> (<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>)
- ③<sup>ㄨ</sup> = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>
- ④<sup>ㄨ</sup> = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>

吉池：研究小組(1977)<sup>3</sup>と『契丹小字研究』(1985)は共に<sup>ㄨ</sup>を  $\text{ʃi}$  とし、その後の研究でもこの点は動きません。峇 (峇) は、前回までの検討で、拗音性を消失した  $\text{i}$  としました。

①のように全て同音であったと想定すると、<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  と <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> (<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>) の  $\text{i}$  は矛盾することになるので採用するわけにいきません。②のように全て異なる音であったと想定すると、「師」・「史」・「事」・「使」に三種の音を想定することになります。

中村：②について、理屈の上では、<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  ( $\leftarrow \text{ʃi} + \text{i}$ ) が考えられけれども、<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  と <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  を異なる音として認識し表記し分けることができた、と想定することには無理があります。

吉池：③<sup>ㄨ</sup> = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> はあり得ますね。<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  (或は  $\text{ʃi}$ ) = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  というところでしょうか。この場合、 $\text{ʃi}$  (或は  $\text{ʃi}$ ) と  $\text{ʃi}$  の違いをどのように理解するか、簡単ではないですね。 $\text{ʃi}$  (或は  $\text{ʃi}$ ) と  $\text{ʃi}$  を、異なる層の漢字音とし、 $\text{ʃi}$  を、旧音を保持した音とすることも可能ですが不都合な点もあります。故耶律氏銘石をみると、師<sup>ㄨ</sup> (15.國師, 25.太師) と師<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup> (5.太師, 6.太師) あります。同じ碑文のなかで、同じ語彙の「太師」を、<sup>ㄨ</sup>とも<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>とも表記します。語彙に偏りがあるわけではないので、異なる層の漢字音と理解するのも困難です。

中村：故耶律氏銘石については、<sup>ㄨ</sup>と<sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>は同音であり、文字表記が異なっていたとすると理解できます。④<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  = <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  ≠ <sup>ㄨ</sup>峇<sup>ㄨ</sup>  $\text{ʃi}$  ( $\leftarrow \text{ʃi} + \text{i}$ ) というところでしょうか。止摂荘組では拗音性の消失は起こっていない。しかしながら、一部において、 $\text{ʃi}$  のように拗音性の消失

<sup>3</sup> 中國社會科學院民族研究所・內蒙古大學蒙古語文研究室契丹文字研究小組(1977)『關於契丹小字研究』(內蒙古大學學報契丹小字研究專號) 1977 (4)。陳乃雄・包聯群(2001)『契丹小字研究論文選編』呼和浩特：內蒙古人民出版社、149-309 頁所収。

が見られる。なお、**𠂔**に母音**𠂔**を付して**𠂔𠂔** *ʃi* とした場合、*ʃi*の**ʃ**は、実際には捲舌音の *ʃ* となっていたと理解して良いのでしょうか。

### 𠂔の用例の検討

中村：③のように**𠂔**が *ʃi* (あるいは *ʃi*) であったか、④のように *ʃi* であったかということについては、**𠂔**が実際にどのように用いられているか検討する必要があります。漢語表記の専用字であったかどうかを実例によって確認しなければなりません。劉浦江・康鵬(2014)<sup>4</sup>の語彙索引ではどのようになっていますか。

吉池：次の通りです。これは語彙が出てくる順番に並べたものです。

1. **𠂔𠂔𠂔** (蕭令公墓誌【劉鳳翥(2014)<sup>5</sup>は蕭高寧・富留太師墓誌とする】20-7、耶律迪烈墓誌 34-5、蕭圖古辞墓誌 16-26)、参考詞義 無し
2. **𠂔𠂔** (尚食局使蕭公墓誌【劉鳳翥(2014)は蕭居士墓誌とする】16-1)、参考詞義 無し
3. **𠂔** (27 碑文 177 例)、参考詞義「侍/師/史/使/事/詩/氏/士/石」
4. **𠂔𠂔** (蕭仲恭墓誌 6 例)、参考詞義「使/事/侍」
5. **𠂔𠂔𠂔** (金代博州防禦使墓誌 1 例)、参考詞義「使 (領格)」
6. **𠂔𠂔** (17 碑文 33 例)、参考詞義「師/事/石 (領格)」
7. **𠂔𠂔** (8 碑文 10 例)、参考詞義「師詩 (向位格)」
8. **𠂔𠂔𠂔** (耶律永寧郎君墓誌 22-16, 22-23)、参考詞義 無し
9. **𠂔𠂔** (許王墓誌 3-22, 31-5、耶律宗教墓誌 7-6)、参考詞義「侍」
10. **𠂔𠂔𠂔** (蕭仲恭墓誌 42-25)、参考詞義「師 (領格)」
11. **𠂔𠂔𠂔** (蕭仲恭墓誌 36-35)、参考詞義「師 (賓格)」
12. **𠂔𠂔** (6 碑文 14 例)、参考詞義「使/侍」
13. **𠂔𠂔𠂔𠂔** (許王墓誌 40-20)、参考詞義 無し
14. **𠂔𠂔** (耶律宗教墓誌 6-8, 21-21, 25-28、耶律慈特墓誌 7-14, 10-35, 10-38, 12-15)、参考詞義 無し
15. **𠂔𠂔𠂔** (耶律 (韓) 迪烈墓誌 9-16)、参考詞義 無し
16. **𠂔𠂔𠂔** (耶律 (韓) 迪烈墓誌 21-34)、参考詞義 無し

やや整理して提示すると次のとおりです。

■参考詞義に止摂歯音の借用漢語が想定されるもの

3. **𠂔** (27 碑文 177 例)、参考詞義「侍/師/史/使/事/詩/氏/士/石」
4. **𠂔𠂔** (蕭仲恭墓誌 6 例)、参考詞義「使/事/侍」
5. **𠂔𠂔𠂔** (金代博州防禦使墓誌 1 例)、参考詞義「使 (領格)」

<sup>4</sup> 劉浦江・康鵬(2014)『契丹小字詞彙索引』北京：中華書局。

<sup>5</sup> 劉鳳翥(2014)『契丹文字研究類編』(第一冊～第四冊)北京：中華書局。

6. 𠄎𠄎 (17 碑文 33 例)、参考詞義「師/事/石 (領格)」
7. 𠄎𠄎 (8 碑文 10 例)、参考詞義「師詩 (向位格)」
9. 𠄎𠄎 (許王墓誌 3-22,31-5、耶律宗教墓誌 7-6)、参考詞義「侍」
10. 𠄎𠄎𠄎 (蕭仲恭墓誌 42-25)、参考詞義「師 (領格)」
11. 𠄎𠄎𠄎 (蕭仲恭墓誌 36-35)、参考詞義「師 (賓格)」
12. 𠄎𠄎 (6 碑文 14 例)、参考詞義「使/侍」

■参考詞義が付されていないもの

・共通点がないもの

1. 𠄎𠄎𠄎𠄎 (蕭令公墓誌【蕭高寧・富留太師墓誌】20-7、耶律迪烈墓誌 34-5、蕭圖古辞墓誌 16-26)、参考詞義 無し
2. 𠄎𠄎𠄎 (尚食局使蕭公墓誌【蕭居士墓誌】16-1)、参考詞義 無し
8. 𠄎𠄎𠄎 (耶律永寧郎君墓誌 22-16, 22-23)、参考詞義 無し
13. 𠄎𠄎𠄎 (許王墓誌 40-20)、参考詞義 無し

・𠄎𠄎を共通に持つもの

14. 𠄎𠄎 (耶律宗教墓誌 6-8,21-21,25-28、耶律慈特墓誌 7-14,10-35,10-38,12-15)、参考詞義 無し
15. 𠄎𠄎𠄎 (耶律 (韓) 迪烈墓誌 9-16)、参考詞義 無し
16. 𠄎𠄎𠄎 (耶律 (韓) 迪烈墓誌 21-34)、参考詞義 無し

中村：参考詞義が付された用例は、いずれも、漢語の止摂歯音の語、およびそれに各種の語尾が付いたものと理解することができます<sup>6</sup>。問題は、参考詞義が付されていない 1 𠄎𠄎𠄎𠄎・2 𠄎𠄎𠄎・8 𠄎𠄎𠄎・13 𠄎𠄎𠄎と、14 𠄎𠄎・15 𠄎𠄎𠄎・16 𠄎𠄎𠄎ですね。

吉池：8 𠄎𠄎𠄎の𠄎𠄎は、呉英喆(2007)<sup>7</sup>によると、「従比格 (行為の起点を表わす)」として常用される語です。例として、耶律永寧郎君墓誌 22-16 の𠄎 (太) -𠄎𠄎𠄎 (師由) -𠄎𠄎 (生

<sup>6</sup> なお、参考詞義に説明はないが、9, 10, 11 の𠄎𠄎の𠄎は格語尾 (時位格、「〜に」に相当) もしくは複数語尾であり、𠄎𠄎𠄎や𠄎𠄎𠄎は更に𠄎 (領格) や𠄎 (常用の時位格) が付いたものと理解することができる。『契丹小字研究』(1985)には「關於「𠄎」: 我們看到「𠄎𠄎 (馬)」後接加這個附加成分的例子「𠄎𠄎𠄎」, 另還有「𠄎𠄎, 𠄎𠄎𠄎, 𠄎𠄎, 𠄎𠄎」等不少例子。「𠄎」音[ta], 那麼它是不是時位格的另一種附加成分呢? 現在還不能肯定。因為我們發現「𠄎」後邊還可以接加別的附加成分, 如: 「𠄎𠄎, 𠄎𠄎𠄎, 𠄎𠄎𠄎」, 「𠄎𠄎, 𠄎𠄎𠄎, 𠄎𠄎中, 𠄎𠄎𠄎」。

<sup>7</sup> 呉英喆(2007)『契丹語靜詞語法範疇研究』呼和浩特: 內蒙古大學出版社。77 頁参照。

的)「太師より生まれた～」があがっており、漢語の止摂歯音の語に格語尾**矢**が付いたものと理解することができます。14 **𠄎**、15 **𠄎**、16 **𠄎**に参考詞義はありませんが、**𠄎** (太師) とそれに格語尾が付されたものと理解していいのでしょうか。劉鳳翥(2014)<sup>8</sup>の各碑文の模写資料に付された傍訳には次のようにあります。**𠄎** (太師)、**𠄎** (太師之)、**𠄎** (太師於)。

中村：問題は、1 **𠄎**、2 **𠄎**、13 **𠄎**です。一つずつ確認しましょう。

**𠄎** (蕭令公墓誌【蕭高寧・富留太師墓誌】20-7、耶律迪烈墓誌 34-5、蕭圖古辞墓誌 16-26)

吉池：**𠄎**の出所である蕭令公墓誌【蕭高寧・富留太師墓誌】20-7の拓本の画像には、劉鳳翥(2014)所収のものと、清格爾泰(2002)所収のもの(圖 13-2)があります。後者の方が良好です。後者によると次のとおりです。全体に渡って字形の同定は困難ですが、3字目は**𠄎**ではなく、**𠄎**もしくは**𠄎**のように見えます。



耶律迪烈墓誌 34-5の拓本の画像は、劉鳳翥(2014)所収のものと、清格爾泰(2002)所収のもの(圖 13-2)があります。後者の方が良好です。後者によると次のとおりです。3字目は**𠄎**ではなく**𠄎**です。



蕭圖古辞墓誌 16-26の拓本の画像は、劉鳳翥(2014)所収のものがあります。3字目は**𠄎**ではなく**𠄎**です。

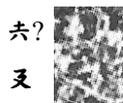


中村：**𠄎**は**𠄎**を使用した語例から除いていいのでしょうか。2 **𠄎**はどうでしょうか。

**𠄎** (尚食局使蕭公墓誌【蕭居士墓誌】16-1)

<sup>8</sup> 劉鳳翥(2014)『契丹文字研究類編』(第一冊～第四冊)北京：中華書局。

吉池：夫𠂔爻の出所である尚食局使蕭公墓誌 16-1 の拓本の画像は、劉鳳翥(2014)所収のものがあります。1 字目と 2 字目は不明瞭です。とくに 2 字目を特定するのは困難です。劉鳳翥(2014)の模写も夫𠂔爻とし口を付して不明瞭であるとしします。即實(2012)<sup>9</sup>は夫𠂔爻とし「𠂔」抄本作𠂔、誤。𠂔、用於音寫漢語，不用於契丹語。據《森誌》【許王墓誌：対談者注】第 46,56 行同語校正。」(1066 頁) としします。許王墓誌の拓本画像によると確かに夫𠂔爻という語はあります。



中村：𠂔は漢語音表記の専用字であるとの予断をもって事実を判断するのはいかなるものでしょう。残った字形から見て 2 字目を𠂔とするのは困難です。いずれにしても、夫𠂔爻も𠂔を使用した語例から除いていいのでしょうか。13 𠂔𠂔𠂔𠂔はどうでしょうか。

#### 𠂔𠂔𠂔𠂔 (許王墓誌 40-20)

吉池：𠂔𠂔𠂔𠂔の出所である許王墓誌の拓本の画像には、劉鳳翥(2014)所収のもの(61)と、清格爾泰(2002)所収のもの(圖 16-1)、『契丹小字研究』(1985)所収のもの(圖 15-2)があります。『契丹小字研究』(1985)所収のものが良好です。それによると次のとおりです。4 字目は𠂔に似ていますが左の点が明瞭ではありません。類似した原字に𠂔があり、こちらのほうが拓本の字形に近いように見えます。また𠂔は語末にしばしば利用されるので𠂔𠂔𠂔𠂔としても不自然なところはありません。



中村：1 𠂔𠂔𠂔𠂔、2 夫𠂔爻、13 𠂔𠂔𠂔𠂔を、𠂔の用例から除くことができるとなると、𠂔は、即實(2012)が言うように、漢語の止攝莊組・章組の摩擦音の漢字音を表記する専用字ということになります。𠂔が漢語専用字だとすると、漢語にも契丹語にも利用される𠂔𠂔 ʃi という音ではないということになります。また𠂔𠂔という表記は一つも無く、𠂔𠂔という表記は有るので、母音が-i であったことは考えられません。ʃi あるいは ʃi のような音であったとするのが穏当なところでしょう。

吉池：先に、莊組について、理屈のうえでは下記のように③と④が考えられるとしましたが、③であったということでしょうね。

③ 𠂔 = 𠂔𠂔 ≠ 𠂔𠂔

④ 𠂔 = 𠂔𠂔 ≠ 𠂔𠂔

<sup>9</sup> 即實(2012)『謎田耕耘：契丹小字解讀續』瀋陽：遼寧民族出版社。

中村：これまでの議論を整理すると、精組と莊組は次のようであったということになります。

止摂精組：**𪛗** Sī = **𪛗** 𪛗 tsī (ts+i) ・ **𪛗** Sī (S+i)。拗音性は消失している。

止摂莊組：**𪛗** ġī = **𪛗** 𪛗 ġī ≠ **𪛗** 𪛗 ġi。拗音性は消失しているが、一部において拗音性を保持した音も見られる。

吉池：止摂莊組において、**𪛗** ġī = **𪛗** 𪛗 ġī であったとして、故耶律氏銘石では、師**𪛗** (15.國師, 25.太師) と師**𪛗** (5.太師, 6.太師) があり、同じ碑文のなかで、同じ語彙の「太師」の「師」を、**𪛗**とも**𪛗**とも表記するのはなぜか、という問題が残ります。語彙に偏りがあるわけではないので、異なる層の漢字音と理解するのも都合が悪い。

中村：この問題、章組の検討の後に考えるということではいかがでしょう。

### 章組について

吉池：章組は次の通りです。

	<b>𪛗</b>	<b>𪛗</b> 𪛗
遼 (916—1125)		
興宗皇帝哀冊 1055 年	無し	
蕭令公墓誌 1057 年	無し	
仁懿皇后哀冊 1076 年	無し	
道宗皇帝哀冊 1101 年	無し	
宣懿皇后哀冊 1101 年	無し	
許王墓誌 1105 年	詩 <b>𪛗</b> (詩曰) 侍 <b>𪛗</b> (侍中)	侍 <b>𪛗</b> 𪛗 (侍中)
故耶律氏銘石 1115 年	無し	
金 (1115—1234)		
郎君行記 1134 年	無し	
蕭仲恭墓誌銘 1150 年		侍 <b>𪛗</b> 𪛗 (侍郎) 侍 <b>𪛗</b> 𪛗 (侍郎)

中村：許王墓誌によると、一つの前字で表記する詩**𪛗**侍**𪛗**と、二つの前字で表記する侍**𪛗** 𪛗があります。この関係をどのように見るか、理屈の上では次の 2 つの組み合わせが可能です。

① **𪛗** ≠ **𪛗** 𪛗

② **𪛗** = **𪛗** 𪛗

吉池：① **𪛗** ≠ **𪛗** 𪛗 であったとすると、**𪛗** ġi ≠ **𪛗** 𪛗 ġi (←ġi+i) というところでしょう。この

ㄨㄨ ʃi は実質的には ʃi とほぼ同音。②ㄨ=ㄨㄨ であつたとすると ㄨ ʃi=ㄨㄨ ʃi (←ʃi+i) というところでしょう。

中村：先の荘組の検討で、ㄨは止摂荘組の摩擦音声母を持つ漢字音を表記する専用字とし、ʃi あるいは ʃi のような音であつたとしました。章組の摩擦音でもㄨとㄨㄨが使用されているので、荘組と同様に ʃi あるいは ʃi であつたとしていいのでしょうか。そうすると、②ㄨ=ㄨㄨ であつたということになります。

①ㄨ≠ㄨㄨ

②ㄨ=ㄨㄨ

これは『契丹小字研究』(1985)で検討された語彙による議論です。荘組と章組については、いまいし用例があればいいのですが。吉池さん、たしかこの点について、その後に出土した幾つかの墓誌を加えて検討していましたね。

### 13 種の墓誌等の荘・章組字の出現頻度

吉池：吉池孝一(2004a,b)<sup>10</sup>があり、(2004b)によると次のとおりです。以下十三種の墓誌等を持ちいた調査です<sup>11</sup>。①⑤⑨⑬の四種が新たに加えたものです。表では\*を付しました。

止摂荘組章組(次の表では荘系、章系とする)の声母には破擦音と摩擦音があるのですが、解読されているものは摩擦音にかぎられるため、ここでは摩擦音のみとなります。表中の数字は当該字の出現頻度です。

資料	声母	ㄨ	ㄨㄨ ʃi	ㄨㄨ ʃi
遼代 ①*	荘系	師 4 史 1 使 1		使 4
②	荘系	史 1		
③	荘系	師 11 史 4 使 2 事 1		
⑤*	荘系	師 2 史 1 使 3 事 2		師 4 史 2 使 2
⑧	荘系 章系	師 2 史 2 使 3 事 1 侍 1 詩 4	侍 3	
⑨*	荘系	使 3 師 1		

<sup>10</sup> 吉池孝一(2004a)「止攝開口精母系の漢語音を表わす契丹小字について」『KOTONOHA』14、11-14 頁。吉池孝一(2004b)「止攝開口莊章母系の漢語音を表わす契丹小字について」『KOTONOHA』15、11-14 頁。これらは吉池孝一・中村雅之・長田礼子(2020)『契丹語と契丹文字 付碑文拓本9種画像 (JPEG)』愛知：古代文字資料館、84-88、89-92、93-96 頁所収。

<sup>11</sup> ①1053年「耶律宗教墓誌」②1055年「興宗皇帝哀册」③1057年「蕭令公墓誌」④1076年「仁懿皇后哀册」⑤1092年「耶律迪烈墓誌」⑥1101年「道宗皇帝哀册」⑦1101年「宣懿皇后哀册」⑧1105年「許王墓誌」⑨1107年「澤州刺史墓誌」⑩1115年「故耶律氏銘石」⑪1134年「郎君行記」⑫1150年「蕭仲恭墓誌」⑬1170年「博州防禦使墓誌」。

⑩	莊系	師 2 使 1		師 3
金代	莊系	師 5 史 1 事 1	使 2 事 1	
⑫	章系		侍 5	
⑬*	莊系	史 1 使 1	使 2	師 1

〈図表 1〉

中村：〈図表 1〉の⑧許王墓誌ですが、侍~~ㄨ~~ㄨの例が 3 とあります。この数字は当該字の出現頻度とのことですが、先の『契丹小字研究』(1985)所収の例では「侍~~ㄨ~~ㄨ(侍中)」とのみあり出現頻度の数は表示されていません。どういうことでしょうか。

吉池：『契丹小字研究』(1985)所収の例は、同書の「契丹小字詞語釋讀表」によったもので、同じ墓誌等の中で語彙が重複して出現した場合例数として数えません。〈図表 1〉では重複するものも数えましたので出現頻度数として出てきます。また〈図表 1〉では~~ㄨ~~を~~ㄨ~~の異体字として~~ㄨ~~の中に入れていまして~~ㄨ~~と~~ㄨ~~の合計数となっています。〈図表 1〉と、『契丹小字研究』(1985)によった表では、集計の方針が異なるので注意が必要です。

中村：〈図表 1〉によると、~~ㄨ~~ㄨ~~ㄨ~~ *ʃi* の出現頻度が思いのほか多く、広く各時期に渡っているという印象です。しかも莊組(莊系)に集中しています。北宋の邵雍(1011-1077年)の『皇極経世声書』にある「声音唱和図」では、止撰歯音のうち、精組と莊組は直音が想定される等次に配置され、章組は拗音が想定される等次に配置されます。また、『蒙古字韻』(1308年朱宗文校訂序)では、止撰の精組と莊組は直音で章組は拗音であり、北宋の「声音唱和図」と同じです。このことと、〈図表 1〉で~~ㄨ~~ㄨ~~ㄨ~~ *ʃi* が莊組(莊系)に出て章組(章系)に出ないというのは符合しません。もっともこれは、章組(章系)の用例が少ないため、莊組(莊系)に集中しているように見えるだけかもしれませんが、たしか吉池(2004b)と孫伯君(2009)<sup>12</sup>には、このような状況についての議論がありましたね。

### 吉池(2004b)と孫伯君(2009)

吉池：~~ㄨ~~・~~ㄨ~~ㄨと~~ㄨ~~ㄨ~~ㄨ~~ *ʃi* の併用をどのように考えるかということですね。

吉池(2004b)は「『中原音韻』で音韻的に/i/と意識された音が、契丹小字の漢語を表記する人たちは音的に異なる音と意識したものか、あるいは実際に i と i の両者に発音する人たちが混在していたのか、それとも音の事実を反映するのではなく何らかの文字表記上の問題であるのか、さらに具体的なことについては今後の資料の蓄積をまちたい。」(13 頁)とします。陸続と新たな資料が出土している最中であつたので、図表 1 では不足であり、今後の課題としています。

<sup>12</sup> 孫伯君(2009)「從契丹小字“~~ㄨ~~”看支思韻在遼代的分立」『中國語文』2009(1)、77-79 頁。

孫伯君(2009)は幾つか具体例を出し<sup>13</sup>「值得注意的是，與精組字不同，書、禪母漢字“師”、“室”等既可音譯“𐰽”、“𐰾”，又可音譯“𐰿”、“𐰺”，說明當時漢語莊、章兩組後的i還沒有完全變成舌尖後音[ɳ]。這一結論可以與《切韻指掌圖》的情形相印證，《切韻指掌圖》把“茲、雌、慈、思、詞”等字列在一等，而知、照兩組的止攝字仍在三等。」(77頁。下線は対談者による)とします。止攝の莊・章組字はまだ完全にはi[ɳ]となっていないとの見方です。“完全にはi[ɳ]となっていない”とはどういうことか不明確です。iで発音する人とi[ɳ]で発音する人が混在しているということなのか、それともiとi[ɳ]の中間的な音であったということなのか、はっきりしません。中村さんいかがでしょうか。

中村：孫伯君(2009)は、「書、禪母漢字“師”、“室”等」としますが、「師」は書母でも禪母でもなく莊組摩擦音の生母字です。これは単純な誤記もしくは誤植でしょう。それは措くとして、孫氏は、契丹小字の用法と『切韻指掌圖』がよく似た状況であると見て、止攝歯音の中舌化(i)の状況を互いに証明しあっているとします。しかし一方で、**𐰿**を漢語止攝莊・章組の摩擦音を表記する専用字であり母音はiであるとします<sup>14</sup>。全期を通して止攝莊組・章組の摩擦音を表記する主要な契丹小字が**𐰿**であることは動かないわけですから、母音の拗音性は消失していたと考えざるを得ません。そのことと、完全にはi[ɳ]となっていないとの見方との間には矛盾があります。それでは**𐰽𐰾** j i という表記は何か。新出資料を加えて網羅的に調査をしなければ何とも言えないでしょう。

また、吉池(2004b)ですが、〈図表1〉によって全体の傾向を知ることはできても、読者にとってはブラックボックス同様です。漢字だけ示されても判断のしようがありません。どのような語彙において**𐰿**、**𐰺𐰾**、**𐰽𐰾**が使用されるのか、網羅的に調査する必要があります。

吉池：孫伯君(2009)の引用部分(77頁)には問題がありますね。契丹小字の用法で、止攝精組がiであるのに対して止攝の莊・章組では**𐰿**・**𐰺𐰾**-iと**𐰽𐰾** iが併用されと見るのは事実誤認です。〈図表1〉が示す資料によっても、孫伯君(2009)自身が示す資料(注13。莊組摩擦

<sup>13</sup> 以下いずれも孫伯君(2009)の77頁による。

**𐰽𐰾**の例「“師”(太師,《故耶律氏銘石》第5行)」。

**𐰿**の例「獨用時可音譯漢字“事”、“師”、“使”、“史”、“詩”、“侍”等,如:“太師”(《故耶律氏銘石》第25行)、“觀察使”(《故耶律氏銘石》第2行)、“刺史”(《許王墓誌》第48行)、“詩曰”(《許王墓誌》第13行)、“侍中”(《許王墓誌》第7行)、“政事令”(《蕭令公墓誌》第6行)等。」

**𐰺𐰾**の例「與小字“𐰾”相拼時,可音譯漢字“侍”、“使”、“事”等,如:“侍中”(《許王墓誌》第6行)、“副宮使”(《蕭仲恭墓誌》第8行)、“觀察使”(《蕭仲恭墓誌》第8行)。」

<sup>14</sup> 「通過上例可知,契丹小字“𐰽”的使用範圍比“𐰿”要廣,既用於拼契丹語,又用於拼漢語,且只能與“𐰾”相拼。而“𐰿”的使用範圍要窄一些,往往只能用於拼漢語,我們推測這個字最初可能是專門爲音譯書、禪母漢字而創製的獨用音節字。從拼合情況可知,即使“𐰿”字有時不獨用,它也只能與契丹小字“𐰾”相拼,而不可以與“𐰾”相拼,說明獨用字“𐰿”的元音是“𐰾”(i)而非“𐰾”(i)。」(77頁)。

音の“師”1例のみ)によっても、**ㄨ**と**ㄨㄨ** *f* *i*が併用されるのは莊組の摩擦音のみです。章組の摩擦音に**ㄨㄨ** *f* *i*が用いられる例はありません。おそらく孫氏は、莊組摩擦音の**ㄨㄨ** *f* *i*を見て、章組摩擦音も**ㄨㄨ** *f* *i*で表記されるに違いないと判断したのでしょう。今後の我々の検討では、章組摩擦音に**ㄨㄨ** *f* *i*が無いのは、章組字の用例が少ないための偶然であるのか、それとも何らかの他の事情があるのか、資料を積み上げて検討しなければなりません。

今回は問題の提起にとどまりましたがこれまでとし、次回は、劉浦江・康鵬(2014)の語彙索引と、劉鳳翥(2014)所収の全資料の模写と傍訳を利用して、止摂莊・章組の摩擦音を網羅的に調査し検討しましょう。